

令和4年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

音 楽

学年	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
1年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>約9割の児童が、音楽に合わせて手拍子でリズムを刻んだり、歌唱に意欲的に取り組んだりすることができるが、表現を工夫しようとする児童が少ない。音楽に対する児童のイメージが膨らませる活動や、楽譜を見て動きを工夫する経験が不足していることが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自然な発想を生かせるように発問の仕方を工夫する。 ・音楽に合わせて身体を動かしたり、歌詞から様子を想像したりして、表現を楽しむ活動を取り入れる。 ・学級全体での演奏、少人数グループでの演奏、一人での演奏など実態に応じて、形態を変え、自分の歌声や演奏している音を意識できるようにする。
2年	<p>【知識・技能】</p> <p>音楽に合わせてリズムに乗って手拍子したり、歌ったりすることができる反面、演奏の強弱や抑揚をつけるまで至っていない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や聴いたことを基に、自分なりのイメージをもてるようにする。さらに、自分の思いや考えを言葉で表現し、全体で共有することで、イメージを豊かにし、演奏する活動を取り入れていく。
3年	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>毎時間のめあてをもとに、7割以上の児童が楽しみながら表現活動に取り組んでいる。しかし、気持ちの切り替えがうまくいかず、活動に参加するまでに時間がかかってしまう児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律が定着している児童を称賛し、そのよさを学級全体に広めていく。 ・授業に見通しをもって参加できるように、活動の流れを示したり、教材の提示方法を工夫したりすることで、児童が安心して学べる環境を設定していく。
4年	<p>【知識・技能】</p> <p>鑑賞領域において楽曲を聴いてどのようなことを感じたのか等、豊かに楽曲を聴くことができる児童が多い。しかし、音楽のどの要素からそう感じたのか、根拠をもって言葉で表現することに課題がある。そのために、音楽の知識を習得することが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用し、楽譜や図形楽譜等を視覚的に提示することで、音楽の要素を捉えられるようにする。 ・楽曲に動きを付け、児童が音楽を聴いて無意識に感じていることを意識化し、言語表現したり、音楽の要素に気付いたりして知識を習得させていく。
5年	<p>【知識・技能】</p> <p>コロナ禍で管楽器の活動に制限があったため、タンギングの習得ができていない児童が6割程度いる。また、リコーダーの新しい楽曲に取り組むことに、抵抗感をもっている児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タンギングの習得に向けて、吹かずにできる言葉の練習やペア学習などを通して、技能を身に付けられるようにする。 ・新しい学習に取り組みやすいようにスモールステップで提示したり、児童が自分の難易度に合った楽譜を選択したりして、自信をもって学習に取り組めるようにしていく。
6年	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>歌唱活動や器楽活動の領域において基本的な技能は身に付けているが、どのように演奏をしたいか自分の思いをもったり、イメージをしたりすることに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の要素を見付けやすい教材を扱ったり、児童自身の経験に重ねて考えられるような活動を設定したりして、思いや意図をもって表現できるようにしていく。 ・目的に応じてペアやグループで意見を交流し、学級全体で共有していく。